

## 漢字は幼児期のうちに

言葉の学習では、三歳から四歳までの一年間を“成熟期”と呼んでみて、四歳になればおよそ二千語ほどの言葉を理解し、テニヲハを正しく使ひ、動詞などの活用も正しく使へるやうになる。

既の実証されてある通り、漢字は言葉よりも覚え易いものであるから、漢字の学習においても、その“成熟期”は三歳～四歳よりも遅いわけが無い。だから、四歳までには、日常よく使はれる漢字が二千字位、誰でも読めるやうにする事が出来るはずである。

私は、昭和三十五年から六年間、一年生を卒業するまで担任してみ、一・二年生が漢字を覚える能力が最も高く、五・六年生が最も低いことを発見した。明治以来、学校教育で漢字学習がうまく行かないのは、「能力が高い低学年で漢字学習を軽くしてゐて、能力が衰へて来た高学年で多くの漢字を学習させる」ことに在ったのである。

この事が、固定観念に縛られてゐる人々にはどうしても理解できないもののやうである。漢字は、幼児期が最も覚え易く、次いで小学校の一・二年生がよく覚えるのに、この時期に学習させないでゐて、記憶力が衰へてから多くの漢字を学習させるので、子供たちには漢字が難しく感じられるのであって、漢字そのものが難しいものでない事は既に述

べた通りである。

食べ物がうまいかまづいかは、見ただけでは決して判らない。然し、口に入れてみれば直に判る。それと同じやうに、幼児に漢字が易しく覚えられるか否かは、いくら考へてみたところで判る事ではない。然し、幼児に漢字を教へてみれば直に判る事である。

私が体験から「幼児に漢字を教へるべきである」ことを主張し始めて既に二十年を経てゐる。「偏されたつもりでやってみたらどうか。やってみれば直に判るから、私の言った通りにならなかつたらそこで止めれば良いではないか」と言って奨めて来たが、なかなか試してみようといふ者は少ないものである。全国には、幼稚園、保育園が五万もあると言ふのに、漢字教育を実践してくれてゐる幼稚園・保育園は五百園しか無い。百園中一園しか無いのである。